

# 私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会(事務局:全国私立学校教職員組合連合)  
No.52 2025年2月18日(火)

県内最大のシェアを持つ地元紙の「福井新聞」に、高校生が2月13日にとりくんだ街頭署名の記事が大きく掲載されました。今年度3回目、県立を含む5校26人の高校生が集まり、署名への協力を呼びかけました。記事には、愛知の新歓フェスに参加したことが参加の契機になったこと、私学助成の学びが意識を変えたこと、さらに制度拡充が進んでいる福井だけでなく「苦しむ全国の仲間を助けたい」という思いなど、高校生の成長をうかがえる記述があります。かつて自分の娘に「謝るくらいなら一緒に運動して」と言われた母親は「傍観者でいるのではなく、困っている人の力になりたい」と語っています。高校生だけでなく大人もまた、運動をとおして自己変革に至り、周りに声をかける「主体者」になっていく様子がわかります。

この記事は3面の掲載ですが、同日の福井新聞の1面トップは「高校授業料 予算案修正」の見出しで、「首相表明 全世帯を支援」「無償化 26年度本格実施へ」という記事、また5面には解説記事も掲載され、情勢の動きと高校生の活動がまとめて読める構成になっています。

全国各地でひとつひとつ丁寧に集めた署名を携えて、そこに込められた一人ひとりの思いを胸に刻み、明日の院内集會に臨みましょう。

# 私立高学費 助成拡充を

地域に差

## 苦しむ仲間助けたい

## 県内高校生ら 署名活動



私立高の学費に対する支援拡充を求め、署名活動を行う高校生=13日、福井市の福井駅西口

県内の署名活動は私立高の教員や卒業生で2019年に設立した「福井県私学の公費助成をすすめる会」が主導。現在は会員12人と高校生有志で活動し、私立高の授業料無償化と助成拡充を訴え、県選出国會議員らに署名を提出している。本年度3回目の活動とな

った2月13日夕、福井市の福井駅西口広場に学校帰りの高校生が続々と集まった。この日は私立4校、県立1校から26人が参加。駅に向かう人々に年代を問わず積極的に声をかけ、署名への協力を呼びかけた。私立高の学費に対する公的支援の現状や署名活動の趣旨を丁寧に説明し、約1時間ほどで241筆を集めた。本年度分の2700筆を超える署名を、19日に県選出国會議員に提出する。

署名活動は特に愛知県で盛んに行われており、仁愛女子高3年の山形奈々さん(18)は、23年5月に名古屋市中で開かれた「全国高校生フェスティバル」に参加し活動を知った。福井県内でも同様の活動があることが分り、参加するようになり、昨年8月からは他校の生徒にも呼びかけて展開している。

山形さんは「福井は(支援が)進んでいるからいいや、ではなく全国の高校生が学費に対する不安なく学べるようにしたい」と語る。北陸高1年の林颯生さん(16)は「私学への助成の現状を調べるうちに力になりたいと思うようになった」。山形さんらにも刺激を受け、活動に加わった。

福井県は20年4月から、国の就学支援金に独自に上乗せし、無償化の対象を世帯年収910万円未満に拡大。さらに本年度から扶養する子どもが2人以上いる世帯を対象に所得制限を撤廃した。

一方で、私立高は施設設備費や後援会費などの負担も大きい。仁愛女子高出身で静岡大1年の石田蘭乃さん(19)は、「県立高に進んでいけば負担が少なかったかもと考えると、親に申し訳ない気持ちがあった」と振り返る。そうした思いもあり、大学生の立場で活動を続けている。

**私学助成全国署名を1筆でも多く集約し、今こそ国會議員に「私学の無償化」を訴えましょう。**  
**すべての会派(とくに与党)の國會議員に紹介議員応諾と院内集會への参加を強く要請しましょう。**  
**内集會への参加を強く要請しましょう。**  
**院內集會へ最大結集し、会場を満杯にしましょう。**  
**最新の集約数と紹介議員を集會受付で報告してください。**

### 速報 萩生田元文科大臣が私学の無償化を批判

本日午前、自民党文部科学部会終了後、記者団の取材に対して、維新との高校授業料無償化に関する協議について「サービス合戦でバナーのたたき売り」「中身を議論しないまま野党の言いなりに」「新たな格差を生みかねない」「憲法に照らして正しいのかも含めた議論が必要」などと述べ、「早期の予算成立にこだわらず、年度明けも野党との協議を続けて結論を出すべき」と主張しました。自民党の會議では萩生田議員以外からも、無償化をめぐる議論について苦言が相次いだとのことです。

私学の無償化の前進は、私たちの運動の力で勝ち取らなければならない課題です。

福井新聞2月18日付朝刊

娘が私立高に通っているという40代の母親は「高校生のパワーに引張られる形で活動を始めた。傍観者でいるのではなく、困っている人の力になりたい」と強調した。